

令和7年度 卒業文集 旅立ちの日に

福岡城西学園を卒業する前に一人ひとり書いてくれた作文を文集にしました。
卒業生一人ひとり、それぞれがそれぞれの想いを持って書いてくれています。
今までの人生において経験してきた事、高校生活の事、これからの将来の夢など、
ありのままの表現で書いていますので、あえてそのままの文章で掲載させてもらっています。
読みづらい箇所については何卒、ご了承ください。



福岡城西学園





福岡城西学園 校歌

【作詞】松本 レイ(5期卒業生)
在校生(10~12期)
【作曲】松本 レイ(5期卒業生)
【編曲】天本 健
【サウンド・プロデュース】松下 典由

1. 扉を開けたら 潮風が吹きこんできた
聞こえるチャイムは 始まりの合図だったんだ
黒板に書いたラクガキ 遠回りした帰り道
共にながした汗涙 青春はすぐ側に落ちてる
歩いていこう この道を 福岡城西学園へと 希望いだいて
僕らは今 一歩前の世界で生きている
勇敢な冒険者だから怖くはない 明日が楽しみだ
2. 瞳を閉じたら 波音が響いていた
こぼれる涙は これからのガイドだったんだ
桜着飾るよかトピア 命が宿るプラタナス
いろとりどりの並木道 百道浜少し寂しくなる
歩いていこう この道を 福岡城西学園へと 希望いだいて
ひとり旅を終えてから たどり着いた奇跡 忘れずに 手を取り合い今
夢をつかもう怖くはない 明日が楽しみだ

K. U (糸島市立前原東中学校出身)

私はこの高校生活が今までの人生で一番充実していたと言えます。空白だった中学校時代を埋めるには十分すぎるほど、この3年間は濃く、楽しく、忙しい日々でした。人と話すことが苦手だった私は、入学してすぐの頃「きっと中学校の二の舞になってしまう」と思っていました。ですが、ほんのちょっとした頑張りで、全く違う高校生活を送ることができました。

「ちょっと頑張ってみる」、「ちょっと頑張ってみる」、「ちょっと頑張ってみる」、その「ちょっと」だけでこんなにも楽しい3年間にすることができました。

卒業後は、また友人と離れ離れになり、新しい環境へ変わります。ですが、今の私であれば、きっと楽しい学校生活を送れると信じています。これからも、「ちょっと頑張ってみる」ことを大切にしながら、進んでいきたいと思えます。

最後に、ここで出会うことのできた友達、先生方に改めて感謝します。この福岡城西学園だったからこそ、私は変わることができ、かけがえのない高校生活になりました。本当にお世話になりました。

N. K (福岡市立原中学校出身)

高校生活を振り返ると、様々なことに挑戦し、成長することができた三年間でした。一年生の頃は体調が安定しない日が続き、週二日の登校しかできず、親にもたくさん助けてもらいました。

しかし、二年生になる頃には全日コースへ切り替え、友人と卓球の大会に出場することを決めたり、英検に向けて勉強を始めたりしました。卓球の練習は、思い通りにプレイできないことが多くありましたが、友人と一緒に工夫し、うまくできたときはとても嬉しかったです。楽しく卓球をすることができ、誘ってくれた友人に感謝しています。

そして、三年生では進路について本格的に考え、行動しました。英検二級を取得したいという思いで二年生のときから勉強してきましたが、二級の壁は高く、一度失敗したときはとても悔しかったです。それでも諦めずに努力を続け、取得できた経験は、入試への勉強にも活かすことができたと感じています。面接練習では、多くの先生方がアドバイスや応援をしてくださり、その支えのおかげで大学に合格することができました。本当に感謝しています。

この三年間たくさんの方に挑戦できたのは、親が支えてくれたことが一番大きいと思っています。そのため、大学でたくさん勉強したり、社会経験をしたりすることで成長し、感謝を返していきたいです。

R. H（福岡市立百道中学校出身）

私は、高校生活の3年間、平和で楽しく、とても充実した毎日を過ごすことができました。振り返って、特に思い出に残っているのは、受験生として過ごした高校生活最後の一年です。

大学受験に挑戦する道のりは、決して楽なことばかりではありませんでした。私は中学時代、毎日登校することができず、学習面でも遅れや苦手意識を抱えたまま、この通信制の学校に入学しました。そうした過去もあって、正直なところ、心のどこかで最初から諦めている自分もいました。全日制の他校に通う友人たちと自分を比べては、「今から頑張っても遅いのではないか」、「やはり挑戦しないほうがいいのではないか」と、何度も悩みました。それでも、家族や友人に相談し、支えとなる言葉をもらうことで、折れずに挑戦し続けることができました。

この福岡城西学園では、自分のペースで学ぶことの大切さを知りました。レポートや単位認定試験など、自分から進んで学習することが求められる環境の中で、計画を立てて学ぶ力や、最後までやり切る力が少しずつ身についていきました。こうした経験があったからこそ、受験勉強にも前向きに取り組むことができたのだと思います。

3年生の終盤、受験直前の時期には、先生方にも多く支えていただきました。家と学校を行き来するだけの、勉強中心の毎日が続き、気持ちが沈んでしまうこともありましたが、先生方との面接練習やアドバイスを交わす時間はとても温かく、気持ちが少し軽くなる大切なひとときで、心に深く残っています。最後までマイペースだった私の手を離さず、温かい言葉で指導を続けてくださった先生方には、心から感謝しています。

特に、担任の堀先生には、受験期を通して何度も支えていただきました。志望校に合格することができ、春からは新たな環境で学ぶこととなります。高校生活で身につけた、自分から考え、学び続ける姿勢を大切にしながら、大学でも自分の学びたい分野に前向きに取り組んでいきたいです。

これまで支えてくださった方々への感謝を胸に、これからも一歩ずつ自分のペースで前に進んでいきます。

A. O（福岡市立玄洋中学校出身）

この三年間、私はとても多くのことを学び、経験することができました。同じ趣味を持つ人が集まる、沢山の選択授業、初めて経験したアルバイト、自分達で計画し実行する文化祭、体育祭、新しい友達ができて仲も深まった修学旅行など、色々な思い出ができました。その中でも、とても大事で、色濃く残っている思い出が、友達と過ごす何気ない昼休みです。高校で人間関係が新しくなり、色々な趣味を持つ人と出会う中で、お互い感じ方や価値観が違っても、ぶつかってでも一緒にいたいと思える人達に出会いました。好きな物や生活、

抱えているものがそれぞれ違う中、何も考えずに沢山笑う日常が大好きでした。受験が始まり、個々の戦いになっても友達存在とその記憶で頑張ることができたし、一緒にいる時は辛いことをも忘れられました。

この学校で出会えたこと、友情を育めたこの三年間にとっても感謝しています。また、この高校生活を見守ってくださり、不安定な時期も沢山話を聞いて、相談に乗ってくださった先生方、本当に心の支えになりました。ありがとうございました。

R. F（福岡市立城南中学校出身）

どんなに苦しいことが起きても、最後に笑えたらそれで良い。高校生活を通して、私はそう思えるようになりました。1年生までの私は失敗を恐れていましたが、失敗しても次に繋がれば良いし、経験になると考えるようになりました。

私は高校2年の4月に福岡城西学園へ転校してきました。当時は転校を“逃げ”だと思っていました。新しい環境でうまくやっていける自信もなく、自分を“好き”になる方法も分かりませんでした。しかし今では、福岡城西学園での2年間は、私が私らしく成長できた大切な時間だったと胸を張って言えます。

こどもたちとふれあえるボランティアやアルバイト、祖母の力になりたくて取得した介護資格、好きなことにたくさん挑戦し、多くのことを学びました。

そして、最も力を入れたことは書道です。前の高校で書道の楽しさを知り、大会や技術講習会(他校の書道部や先生方が集まる勉強会)に積極的に参加し、書道技能検定にも挑戦しました。夢だった袴を着ての書道パフォーマンスも初めは難しいと言われていましたが、岩下先生や宮原先生が背中を押してくださり、後輩2人と共に、文化祭で叶えることができました。忘れられない、とても大切な思い出です。

書道を通して、字の美しさや面白さだけではなく、仲間と一緒に作り上げることの大切さを学びました。

そしてこの3年間で自分の進みたい道を見つけることができました。

その道を目指すきっかけをくださり、転校後も気にかけてくださった、転校前の書道部の先生。書の楽しさを教えてくださり、私の居場所を作ってくれた、岩下先生。何をすることも前向きにいつも背中を押してくださった宮原先生。そして、約10年間お世話になっていて、人生において字の大切さを教えてくださった習字教室の先生。高校3年間で私の人生を大きく変えてくださった4人の先生方には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

これからも書について学び続け、邁進していきます。“自分を好きでいられる人生”を歩んでいきたいです。

J. K（糸島市立二丈中学校出身）

私はこのたび、福岡城西学園を卒業します。まだ卒業式はこれからですが、ここまでこられたことに、大きな達成感と感謝の気持ちでいっぱいです。

通信制高校という環境の中での学校生活は、自分で考え自分で行動しなければならない場面が多くありました。最初はとても不安がいっぱいで、思うようにいかず悩むこともありましたが、自分のペースで学ぶことができたからこそ、取後までやり切ることができたのだと思います。この経験を通して、少しずつですが自分に自信を持てるようになりました。

まず、これまで支えてくれた母親には心から感謝しています。うまくいかない時や、弱音を吐いてしまう時も、変わらずそばで見守り、応援してくれました。当たり前のように感じていた日々の支えが、実はとても大きな力になっていたことを、今になって強く実感しています。本当にありがとうございました。

また、学校生活と並行して続けてきたアルバイトでは、働くことの大変さや責任の重さを学びました。決して楽な事ばかりではなかったけど、人との関わり方や時間管理の大切さなど、学校だけでは学べない多くの事を経験することができました。この経験はこれから社会に出ていくうえで必ず役に立つと思っています。

そしてこれからは、祖父の仕事を継ぐことになりました。長年続いてきた仕事を引き継ぐことに、不安やプレッシャーを感じることもありますが、それ以上に誇りを持って取り組みたいという気持ちがあります。祖父が積み重ねてきたものを大切にしながら、自分なりの努力を重ね、成長していきたいです。

福岡城西学園で過ごした時間は、自分と向き合い、将来について考える大切な時間でした。この学校で学んだこと、支えてくれたすべての人への感謝を胸に、新たな一步を踏み出していきます。

本当にありがとうございました。

H. U（福岡市立金武中学校出身）

福岡城西学園に転校して以来、僕はとても成長を実感しました。思い返せば、まだ転校して間もない頃、C組に登校し、緊張していたので、誰とも話せないでいる時がありました。ただC組のクラスメートが積極的に声をかけてくれて、少しずつ輪に入ることができたのでとても嬉しかったです。そのおかげもあり僕は福岡城西学園を「自分の居場所」だと認識するようになり、気づけばサッカー部に入っていたり、バイトを始めていたり、挑戦する心の余裕が生まれていました。あっという間に1年生が終わり、2年生に上がると僕はさらに行動するようになりました。4月に開催された新入生歓迎会をはじめ、文化祭チームリーダー、さらにサッカー部キャプテン等、様々なチャレンジをしました。

その中でも一番心に残っている事は、言うまでもなく修学旅行です。全体を通して数えきれないほどの発見や出会いに恵まれ、本当に有意義な旅でした。特に現地交流で感じた、フィリピンの生徒達の価値観、マインドセットは僕に大きな影響を与えました。教室の中で僕たちを盛大に歓迎してくれて、手遊びをしたりなど、とても楽しい時間を過ごした後僕は彼らに質問しました。「どうしてみんなずっと幸せそうなの？」

するとこんな返答が返ってきました。「毎日楽しまないと人生もったいないから！」

本当にあたり前の事ですが、僕たちが毎日できていない事。そしてこれは彼らの素晴らしい能力だと思いました。修学旅行の8日間はあっという間に過ぎ去り、帰国する日が来ました。そしてホテルを出る際、とても感動した事がありました。それはホテルのプールでみんなと遊んでいた時に会った幼稚園くらいの男の子が深夜2時にもかかわらず、僕たちが出発するのを見送りに来てくれたことです。その男の子は英語が堪能で、プールではみんなも僕もすぐに打ち解けることができ、本当に楽しい時間を過ごしました。なので、もう会えないと思っていた中、最後の最後に会いに来てくれて、嬉しかったですし、一期一会の素晴らしさを感じました。

修学旅行が終わってからの時間の流れはとても早く感じ、気づけば3年生に上がり、卒業も近づいて来ていることに悲しさを覚えるようになりました。まだ書きたい事はたくさんあるのですが、紙が何枚あってもたりないので、まとめに入ります。

まず僕が自分の居場所を見つけることができ、学校が楽しいと思うことが出来たのは、福岡城西学園の先生達のおかげですし、学校生活で関わってくれたクラスメートからも数えきれない程の経験をさせてもらいました。本当に感謝しています。

そして、僕は将来的に、国際教育分野に従事し、子供達が新しい価値観に触れ、たくさんの発見を得る助けをしたいと考えています。自分自身も、今までの海外経験を通して、自己理解や、視野の広がりを体験してきました。将来を生きる生徒たちにとって、これらのスキルは必要不可欠だと感じているので、この職を手にした際は、貢献できるよう精いっぱい頑張りたいです！

本当にこの学校生活が終わると思うと悲しいですが、あまり過去を振り返らず今に目を向けて、人生を謳歌します。

ありがとうございました！

See you around.

Y. I (福岡市立高取中学校出身)

「もしタイムマシンがあるなら、過去か未来どっちに行きたい？」

私はこの質問をされたら、迷わず「過去には戻らない」と答える。なぜなら私はずっと「今」が一番楽しいと思っているからだ。

中学3年生の時、私は不登校だった。覚えている限り、卒業式と卒業アルバムの撮影しか登校しなかったと思う。つまり、ほとんど学校に行っていなかった。そんな私は、もちろん普通高校には行くつもりがなかった。中学3年の担任の先生が勧めてくれたことをきっかけに知った、家から徒歩10分ほどのこの高校に進学した。

高校3年間を振り返ってみると、さまざまな新しい出会いや体験を通して、とても成長した3年間だったと思う。ダンスの授業では仲間の大切さを学び、修学旅行ではフィリピンの文化や歴史に触れ、生徒会選挙では自ら行動することの楽しさや大切さを学んだ。他にも沢山、色んな経験をした。そのどれも1つ1つが今の自分につながっている大切な思い出だ。この学校で3年間過ごすことができ、本当に良かったと思っている。

Y. N (福岡市立内浜中学校出身)

僕が高校3年間で思い出に残っていることは、野球部の仲間と出会えたことです。僕は中学3年の時、体調不良であまり学校に行けていませんでした。部活にも行けてなくて、高校に入ることにたくさん不安がありました。でも入学して初めてできた友達の「大和」と一緒に野球部に入部して、そこから、「しん」・「かなと」・「ゆうたろう」・「こうた」という大事な仲間に出会えました。野球部では3年連続で全国大会という大きな舞台に立つことができました。野球をやっている上で誰もが一度は憧れる神宮球場のグラウンドに立つこともできました。3年生になり、後輩もできて、たくさんの思い出ができました。3年連続で1回戦負けという悔しい結果にはなったけど、3年生では主将も務めて、野球のことだけじゃなく、これから生きていく上で大切な事も学べたと思います。3年間、面倒を見てくれた坂本先生には感謝しています。そして野球部だけでなく、ほぼ毎日遊んでいる、「やまと」・「しん」・「かなと」、そして仲良くしてくれている後輩の「ゆうすけ」・「えがわ」・「はやと」には本当に友達になってくれて、仲良くしてくれてありがとうという気持ちでいっぱいです。

これからも高校でできた最高の仲間たちとじいいになっても、いと変わらず、ずっと仲良くしていきたいです。

M. O (那珂川市立那珂川北中学校出身)

私は中学生の頃、不登校で、いつも心が不安定でした。卑屈になり、親や先生など、周りの人にたくさんの心配をかけていたと思います。そんな私が、さまざまなことに挑戦し、伸び伸びと日々を過ごすことができているのは、間違いなくこの学校での経験があるからです。

私が入学して最初にした大きな挑戦は、生徒会でした。生徒会に入ったきっかけはさまざまですが、一番の理由は「何か新しいことに挑戦したい」と思ったからです。その思いから立候補し、最終的に私は二年間、生徒会副会長を務めました。

生徒会では初めての経験も多く、苦勞することもありましたが、役員同士で協力しながら行事を企画・運営しました。福岡城西学園は基本的に自由な校風なので、行事も他の学校と比べると独創的なものが多いと思います。行事を考える際には、例年の内容を大切にしつつ、新しいことに挑戦する姿勢を重視していました。どのようにすれば全校生徒が楽しめるのかを、さまざまな視点から考え、形にしていくのはとても大変でしたが、それ以上に楽しい時間でもありました。もちろん、生徒会内で意見の違いから何度も衝突しました。しかし、それも今では良い経験だったと感じています。自分の意見を必ずしも正しいと思わず、他の人の立場や思いを考える大切さに気づき、それを実行する力を身につけることができました。

私は時々、「真面目」「リーダーっぽい」と言ってもらえることがあります。私はそれを完全に否定するつもりはありません。皆のために考えて行動することは好きですし、リーダーの立場にいるときの忙しさを心地よく感じることもあります。以前の私なら、「そんなことない」と言って、自分の欠点ばかりを探していたでしょう。今でも全くしなくなったわけではありませんが、この学校で過ごす中で、そうした考えにとられることは格段に少なくなりました。それは、生徒会活動を通して多くの人と関わり、さまざまな経験を積んできたからだと思います。

そして、その大きな要因の一つに、この学校で出会えた友人の存在があります。私は、この学校で一生友人でいたいと思える人に出会うことができました。それはとても恵まれたことだと思います。一度、友人と、ほんの一步間違えれば関係が壊れてしまうのではないかと思う出来事がありました。相手の言葉が凶星で胸に刺さり、自分の言葉で相手を傷つけてしまうかもしれないという思い、そしてこれまで自分が相手を傷つけていたかもしれないという気持ちで泣きそうになりました。しかしそれ以上に、恐れずに本音を伝えてくれた友人の存在が嬉しかったです。話し合いの後、その友人は「ももは自分の言いたいことを分かってくれると思ったから話した」と言ってくれました。その言葉と信頼のおかげで、私は自分に自信を持てるようになり、卑屈な考えをすることが少なくなりました。そしてその友人に出会えたことに、心から感謝しています。

私はまだまだ未熟で、半人前です。しかし、高校入学前の私は、今思えば呆れるほど、もっと未熟で不安定でした。ここまで成長できたのは、支えてくださった家族、友人、先生方、先輩方のおかげです。心から感謝しています。

私はこれからも、自分の人生を歩み続けます。まだ十七、十八年しか生きていない私は、知らないことがたくさんあります。

もっと広い世界を見て学び、失敗を恐れずにさまざまなことへ挑戦しながら、迷いのない自分を見つけていきたいです。

本当に多くのことを学んだ、あっという間の三年間でした。

この三年間を胸に、己の道を進んでいきます。

S. S (福岡市立百道中学校出身)

この学校に入学した当初、私は高校生に対して明確なイメージを持てず、不安を感じていたことを覚えています。しかし、振り返ってみると、この学校で過ごした時間は、私にとってかけがえのない成長の時間でした。

学校生活の中では、さまざまな経験をすることができました。文化祭では実行委員として受付を担当し、人と関わりながら学校行事を支える役割を担いました。また、中学生に勉強を教える学習支援ボランティアにも参加し、相手に分かりやすく伝えることの難しさや、誰かの学びを支える喜びを知りました。

この高校での生活を通して自分自身と向き合う時間を持つことができました。将来への不安や迷いを抱えながらも、こうした経験を重ねる中で少しずつ前に進むことができたと感じています。不安を抱えながらもここまで歩んでこられたことは、これから先の自分を支える大きな自信になると思います。

これまで支えてくださった先生方、家族、そして仲間たちのおかげでここまで歩んでくることができました。これからそれぞれ違う道へ進みますが、ここで得た経験と自信を胸に、自分らしく歩んでいきたいです。

Y. H (福岡市立金武中学校出身)

高校生になってから、今までしなかったことやできなかったことを色々やってきて、やってきたことは無駄じゃなかったと思う。先生達も最初だから優しいと思っていたけど、そんなこともなく、ずっと優しいままで、いつも色々なことを教えてくれた。

文化祭や体育祭すべてが楽しい思い出、たくさん友達もできて最高の3年間だった。卒業後は仕事を精一杯がんばろうと思います。先生や周りの人にはたくさん迷惑をかけたけど、本当に3年間ありがとう！！

R. H (福岡市立舞鶴中学校出身)

私が思い出・印象に残っていることは、陸上競技部です。一年生の時に入部し、週に一回か二回参加してきました。部長の指示にきちんと従い、練習中は短距離・中距離・長距離・筋肉トレーニング・体操などに挑戦しました。この高校の陸上競技部は、毎年六月の初旬に県大会に出場しています。私は二年(二年生の時・三年生の時)県大会に出場して、全国大会出場に向けて練習・本番共に全力で走りましたが、全国大会出場ならず引退が確定してしまったので、非常に悔しかったです。それでも私は、引退を恐れずにまた新しいことに前向きになろうと、自分の意思で決意しました。

今後の目標は、ITの専門学校に行って一生懸命に勉強し、社会に出たら立派なシステムエンジニアになることです。ITパスポート・基本情報技術者の資格を取り、社会に出た時に良いスタートがきれるように頑張ってお参ります。新しいシステムを開発することが楽しみです。周囲の友人・先生方、私のことを色々とお援助して下さり、本当にありがとうございました。

T. M（福岡市立内浜中学校出身）

私は前籍校の柳ヶ浦高校(大分)でサッカー部に所属し、寮生活をしながら過ごしました。初めて親元を離れ、洗濯、掃除など身の回りのことは全て自分で行う生活を体験し、時間の使い方を学ぶことができたと思います。サッカー部では2年次に夏の高校総体で全国大会に出場することができました。私は後半からの出場でしたが、後にプロになる相手と戦えたことは私のサッカー人生において大きな財産となりました。

そして、3年次に進級するタイミングでの転入になる私にも関わらず、福岡城西学園では校長先生、学園長先生に優しく対応していただき、温かく迎えてくださいました。また、先生だけでなく、友達にも恵まれ、楽しく学校生活をスタートできました。友達も以前から知っている仲間のように接してくれて早く慣れることができたと思います。

受験の際には、先生方に志望理由書の添削を丁寧にしてもらったり、面接練習を夜遅くまでしてもらい、たくさんサポートしていただきました。感謝しています。

両親にはこれまで沢山迷惑をかけてしまいました。これからは恩返しができるように常に謙虚で感謝の気持ちを持てる人間でありたいと思います。そして、今も社会人のサッカーチームに所属してサッカーを続けているので、サッカー選手になるという目標、夢を持ち続けていきたいと思っています。

H. M（福岡市立城香中学校出身）

この学校に入り初めは、不安が多く登校もあまりできていませんでした。でも、だんだんと友達ができ、登校する頻度も増え、文化祭や体育祭などのイベントにも参加することができました。この学校だからこそできたこともあり、バイトや旅行、遊びも含めて、学校生活だけでなく、私生活も全力で楽しむことができました。色々なことにも挑戦することができ、3年前の自分では想像できないくらい充実した高校生活を送ることができました。それも友達ができただからこそ経験できたと思っています。初めにお話してくれた子、ずっと仲良くしてくれている子、みんなに感謝いっぱいです。仲良くしてくれて、沢山の思い出を作ってくれて、最高の高校生活をありがとうございました！！

K. Y（福岡市立原中学校出身）

高校生活を通して学ぶ楽しさ、学ぶことの大切さを改めて知り、新しいことに挑戦することもできて、とても充実した3年間でした。

失敗することを恐れ、新しいことに挑戦するのが苦手だった自分が一歩踏み出せたのは、先生方がしてくださった先生自身の経験談を聞いたおかげです。挑戦しなければ何も始まらないこと、失敗は単なる終わりではなく、成長や改善のための重要なステップであることを改めて理解するきっかけになりました。

先生方への感謝と、この3年間で学んだことを忘れず、常に学ぶ姿勢を持ち続け、慣れないことにも積極的に挑戦していきます。

M. I（武富町立船浦中学校出身）

私は、高校から福岡にきました。初めのうちは、都会の生活に戸惑いましたが、地元にはないものが沢山あり、楽しくなっていました。また、数々の機会に触れ今までにすることがないような経験が出来、色々な方々との出逢いもありました。

福岡城西学園では、様々な授業があり勉強になりました。どの授業も興味深く、先生方が分かりやすく授業をしてくださるので面白く、学ぶことは楽しいことだと思えるようになりました。

高校に入学して初めての文化祭も経験しました。想像以上に盛大で驚きました。商品開発部で企画したパンの販売に携わり、良い思い出ができました。印象に残っていることは、文化祭の展示物を見て、みんな技術を持っていて個性があると感じ、刺激を受けたことです。

短い間でしたが、1年間お世話になりました。私に話しかけてくれた人たち、ありがとう。卒業後、私は新しい土地に行き頑張ろうと思います。

Y. W（福岡市立次郎丸中学校出身）

私が高校生活三年間を振り返って印象に残っていることは、就職活動です。三年生になり進路は、就職を選びました。そのためにアルバイトを始めるなど、自分の中で様々な事に挑戦した一年でした。まず接客でのアルバイトを始めたときは、社会人や仕事をする大変さを学びました。私は、人前で話すのが苦手だったので、接客のアルバイトは少し不安がありましたが、少しずつ繰り返し、挑戦することで一緒に働いている人にほめて頂くなど、自分の中で接客業の仕事に自信がついていくようになりました。そして、仕事はつらいことのほうが多いけど、自分の接客でお客様が笑顔になってくれるのがうれしくて、就職しようと決めました。

就職活動は、悩む事がたくさんありました。「自分は何がしたいのか?」、「自分には何が

できるのか？」など自分の事をたくさん考えました。この考えて決めた先がこれからどうなっていくのかは、自分のがんばり次第です。なので、今後は、「仕事に責任をしっかりとつ」、「相手の気持ちを考える」、これらは当たり前の事ですが、改めて自分の中でしっかり目標にすることで、さらに良くできるよう、これから社会人になる自分の課題として、この先の社会人としての生活をより良いものにできるようがんばります。

N. I (福岡市立内浜中学校出身)

私は、2年生の4月に福岡城西学園に転入してきました。始めは緊張していましたが、優しい先生方や声をかけてくれる友達のお陰で緊張しなくなって、気持ちが楽になりました。

2年生の時、宮原先生の「地域あい」の授業で、ペットボトルキャップリサイクルのキャラクターを考えることになり、私が考えたキャラクターがポスターに使われて、名前まで付けてもらって、とても嬉しかったです。このことで、自分がやりたいことに気づくことができました。3年生の文化祭では、初めて個人出店をしました。計画から販売まで、たくさんの人に助けてもらいながら、とてもいい経験をしました。

大学受験の時、志望理由書や私の苦手な面接も、先生方が親身になって練習してくださったお陰で、志望校に無事に合格することができました。とても感謝しています。

人と関わることが苦手になっていた私ですが、福岡城西学園に転入して、先生方や友達とのたくさんのお会いがあって、いろいろな人と関わって、いろいろな経験をしていく中で、成長することができました。福岡城西学園の先生方や友達のお陰で、私は4月からやりたいことを学ぶことができるようになったと思います。大学生になっても頑張ります。本当にありがとうございました。

N. I (福岡市立姪浜中学校出身)

私は、2年生から、転校してきたけど、たまたま知り合いがいたり、同じ学校から転校してきた子がいたりして、友達ができるか不安だったけど、みんな仲良くしてくれて嬉しかったです。もし、最初に話しかけてくれる人がいなかったら、友達はできなかったと思うので、話しかけてくれて、私に友達を紹介してくれて感謝しています。遊びに行くのに誘ってくれて、嬉しかったです。同じ小中学校だった友達にも会えて、自分から勇気出して話しかけたら、すごく仲良くなれて嬉しかったです。帰る方向はバラバラだけど、別れるまで、友達と一緒に学校から帰るのが楽しかったです。転校してきて最初のスクーリングで、一年生と一緒になったとき、隣の席や、前の席の1年生と少し仲良くなって、スクーリング期間中に、お喋りできたのが良かったです。

2年生のときも、3年生のときも、担任の先生が優しく、進路についての話や、相談に乗

ってくれて、ありがたかったです。学校に行ったときに先生が顔を見て、名前を呼んでくれて嬉しかったです。

担任の先生以外にも、行事のときや、スクーリングの授業のときに話したりできて良かったです。今後、進路がどうなるかわからないけど、大学か専門学校に行ったりしながら、バイトを頑張りたいです。

将来なにをしたいかを決めれるようになりたいです。

学校で会った友達とこれからも仲良くできたら嬉しいです。

T. K（福岡市立玄洋中学校出身）

元々、私は内向的な性格だった。高校で初めてできた友達と少しずつ関わっていく中で、閉じていた心がゆっくりとほどけていった。趣味や夢、将来への想いを語り合い、時にはぶつかり合いながら過ごす毎日。その時間は、気づけば「他人」だった存在を、かけがえのない大切な人へと変えていった。友達とカラオケに行ったり、飲食店を巡ったり、初詣で神社に参拝したりと、学業以外にも多くの時間を共に過ごした。写真や動画に残された思い出の数々は、今振り返っても色あせることなく、悔いのない高校生活を送れた証だと感じている。

中でも最も印象に残っているのは、修学旅行で訪れたセブ島での時間だ。初日は早朝に起き、友達と食堂で合流して朝食をとった。甘い香りのするお菓子を買って、分け合いながら笑った何気ないひとときが、今も心に残っている。現地の学生たちと交流した日には、休み時間にチェスをしたり透き通る海で友達と泳ぎを競ったりした。天気の良い海の上で指すチェスは、あの場所でしか味わえない、貴重な時間だった。別の日には、他の友達と街へ出て買い物を楽しみ、お揃いのTシャツを選んだ。夜には大きなマスカットを買って、私の部屋に集まって皆で分け合った。笑い声に包まれながら食べたマスカットの甘さは、今でも忘れられない。教会などの観光地を巡った日には、英語や歴史で戸惑うこともあったが、そのたびに詳しい友達が丁寧に教えてくれた。些細な疑問にも寄り添ってくれたことが、何よりありがたかった。帰りの空港で、冷たいアイスコーヒーを買った。一口飲んだ瞬間、ほっとする安心感と、旅が終わってしまう名残惜しさが胸に広がり、不思議な感覚に包まれた。

高校生活の中で、もう一つ忘れられない出来事がある。それは、自分が進みたい音楽の道を見つけることができたこと、そしてそれを応援してくれる温かい仲間がいたことだ。中学生の頃、私は生きる価値や、自分がここに存在している意味を見失っていた。しかし、支えてくれた家族や大切な友達、そして音楽との出会いが、私の心を大きく動かし、救ってくれた。

これからの目標は音楽を通して、より良い世界をつくることだ。次世代を支える存在となる音楽アーティストになるため、誰かの胸に響き、大切な人のもとへ届く音楽を届けたい。

自分の人生の想いを音に乗せ、いつか自分自身の心に最も輝く作品を残していく。

Y. E (糸島市立前原中学校出身)

僕が、この学校に入ってから思い出は、野球です。1年生の時に「ゆうのすけ」が「野球しよる？」って聞いてきたのが最初でした。そこから二人で、「かなと」、「しん」、「ゆうたろう」、に声をかけて今のメンバープラス、こうたが来ました。ずっと一緒に居てケンカすることなく、歴代で1番仲が良い野球部だったのかなと思います。また、後輩もやさしくて、おもしろい子たちだったので全国大会に行けた事がほんとに楽しかった。結果は初戦敗退でしたが、本気でみんなと野球してるって感じがして、とても良い経験ができました。

最後に坂本先生、3年間はあっという間でした。全国大会に行けたのは仲間たちのおかげでもあります、先生のおかげでもあります。ほんとにいろんな経験ができて野球部に入って良かったです。

N. K (福岡市立福岡中学校出身)

私は、この3年間の高校生活を振り返ってみると、最初の頃は続けられるか不安でいっぱいでしたが、クラスの子達、先生を含め支えてくれた家族と身の回りの人達のおかげで3年間ちゃんと続けられたことに日々感謝でいっぱいです。そのためにも最後の最後まで頑張って卒業をして、社会に貢献して、周りの人達日々成長をしていく姿を見せたいと思います。3年間というあっという間の時間を過ごしてきたけど、勉強以外にも、多くの事を学ぶことができ、楽しい思い出も少しだけですがつくることができました。

今後の目標は、周りの人たちへの恩返しはもちろん、1日1日を大事に過ごして、日々努力しレベルアップをしていけるように何事にも挑戦していけたらと思います。そして周りへの思いやりも忘れず身の周り、自分も含めて健康な日々を過ごしていけたらと思います。まだまだこれからだけどちゃんとした所に就職して社会に貢献していけるように日々努力し頑張っていきます。

H. O (福岡市立那珂中学校出身)

高校生活を振り返り、今、私が抱えているのは「自分の足で立っている」というたしかな手応えと、支えてくれた人々への深い感謝です。

二年生の時、私は大きな壁に突き当たりました。志望クラスの厳しい学習に翻弄され、いつしか学校向かう気力も、自分を信じる心も失ってしまいました。家族と衝突し、自分自身の存在さえ否定したくなるような、孤独な日々もありました。

そんな私を再び前に動かしてくれたのは周囲からの情けないほどの優しさでした。私の苦しみに寄り添い、粘り強く対話を重ねてくれた両親。成績という物差しではなく、私個人を尊

重し続けてくださった先生方。そして、弱さを抱えたままの私を認め、笑顔でエネルギーを分け与えてくれた友人たち、彼らの存在があったからこそ、私は私の道へ進むことができました。

福岡城西学園への転校は、私にとって人生で初めて「自分のために、自分で下した」大きな決断でした。東福岡高校を離れる際に、多くの方が涙を流してくれた光景は、私が一人ではなかったことを教えてくれた、今でも忘れることのない経験です。

あの苦しみがなければ、私は人の痛みに気付かず、これほど多くの愛に囲まれていることにも気付かなかっただしょう。今、こうして自分らしく生きられている。それを糧に、私は新しい世界へ踏み出します。

H. O（糸島市立前原東中学校出身）

入学当時は中学3年生の時不登校だったこともあり週2日登校だったのですが、正直に言えば結構余裕があった気がするので、軽音の授業に出席するようになりました。今から考えると、最初から週5日登校にしてたら、もっと軽音の人たちと交流できたり、人前で歌う機会もあったのかなと思っています。

改めてこの3年間を振り返ってみましたが、この高校に来てよかったと感じています。元々算数・数学は好きだったのですが、豊田先生の授業に出席するうちに下火だったモチベーションも立て直しました。豊田先生の解説はとってもわかりやすかったです。このモチベーションを保って大学でも数学と向き合っていきたいと考えています。

ボイストレーニングの授業に巡りあえたことにも感謝しています。私はあまり人前に立ちたくありませんでした。ボイストレーニングに出席しようと思ったのは普段なら聞かないような曲を知るためでした。授業の中で1人で歌う機会が何度もありました。最初は緊張したり、声が震えましたが、数をこなすうちに緊張することは減り、初めての学習成果発表会を終えた頃には人前で歌うことが好きになりました。2年生の時の成果発表会では、少し失敗もしましたがその失敗のおかげでほんの少しだけ失敗に対する恐怖も減りました。卒業したら人前で歌う機会は減ってしまいますが、歌を通して得た経験をこれからも活かしていきたいと考えています。

Y. K（福岡市立梅林中学校出身）

私が高校生活で印象に残っていることは、陸上で、全国大会に出場したことです。

私は、中学校から、陸上を始め、主に短距離を中心に取り組んでいました。高校生からは、走り幅跳びにも挑戦し、全国大会出場を目標に練習していましたが、高校1年生、2年生と惜しくも全国大会に出場することができませんでした。そして、最終学年である3年生で、全国大会に出場するために、自分の走りを動画でとってもらい、自分が出来ていないところほど

こなのかを(自己)分析し、改善に努めました。その結果、全国大会に出場することができ、とてもいい経験ができました。このような経験ができたのは、競技面でサポートしてくれた顧問の先生や、マネージャー、食事面などあらゆる面で支えてくれた両親のおかげだと思います。また、大学に合格することができたのも、自分一人の力ではなく、たくさんの先生方の支えがあったからです。これまで私に関わり、支えてくださったすべての方々から心から感謝しています。本当にありがとうございました。

これからは、大学で情報通信分野を学び、将来はシステムエンジニアとして、災害時にも役立つシステム開発に携われるようになりたいです。そして、陸上競技を通して身につけた継続力を活かすとともにこれまで支えてくれた周囲への感謝の気持ちを忘れず、大学生活では、さまざまなことにチャレンジしていきたいです。

A. S (福岡市立西陵中学校出身)

私は、この高校生活で、大きく変わることができました。私は、1年生の終わりに週2日コースから全日コースに変更しました。元々、週2日コースでも、行けない日が多く、全日コースにして大丈夫かという不安があったので、短い間だけかなと自分の中で、思っていました。でも、今振り返って、あの時全日コースにして良かったと、心から思います。最初は自分から話し掛けに行けず、1人で学校に居ることがよくありました。でもそんなとき、先生方や周りのクラスメイトが挨拶してくれたり、話しかけてくれたりして、学校生活が楽しいと思えるようになったことを覚えています。授業も、しっかり勉強したい人向けのものから、気軽に受けられるものがあつたことも、学校生活が「楽しい」と思えた理由の1つです。

そして、この高校生活で、特に印象に残っていることは、文化祭や体育祭です。通信制に入学することを決めたときには、こんなに行事に力を入れるとは思っていませんでした。2年生の文化祭では、まだコースを変えてすぐで、あまり親しい人もいなかったのですがロングホームルームの時間で、孤立しないように、全員が参加できるようにしてくれたので、あまり話したことがない人とも、協力して進められました。買い出しや放課後の準備などで、学校外の所でもたくさんの思い出ができ、とても充実した時間を過ごせました。最後の文化祭では、グループのリーダーを務めることができ、週2日コースの時の自分と比べると、大きく変化したなど感じます。この3年間でこんなに変わったのは、この学校の先生方や、周りの友達のお陰だと、強く思います。

今後の目標は、高校生活での経験を活かし、積極的に自分から何かに取り組んだり、進学後の新しいコミュニティでも頑張っていくことです。

最後に、私はこの学校を選んで、高校生活を過ごせて良かったです。3年間ありがとうございました。

Y. H (福岡市立壱岐中学校出身)

僕の高校生活で一番心に残っている出来事があります。それは、修学旅行です。僕は友人たちとの出会いがきっかけで英語に興味を持つと同時に、海外の人々と交流がしたいと考えるようになりました。それからまもなく、フィリピンへの修学旅行に参加する機会があり、僕は参加を申し込みました。フィリピンへの出発までにはまだ余裕があったので、それまでに現地の言葉「タガログ語」や英語の学習をコツコツと行い準備をできるだけしました。

出発当日、僕は緊張でお腹を下してしまいましたが、なんとか集合場所に時間通りに着くことができ、その後もいくつかトラブルに見舞われましたが、出発することができました。飛行機の中では、外の景色にあっけにとられたり、映画を観てとても楽しむことができました。

到着後は、現地のホテルを拠点としながら、社会問題に関連するゴミ山見学や墓地訪問、孤児院見学など様々な体験を通してこれらの問題に対して理解を深め、このことが僕の将来の夢「カウンセラー」になりたいことへのきっかけになりました。夜にはホテル内の卓球施設やプールにて友達と楽しく遊び、より仲を深めることができました。このときに仲が深まった友人とは今でもよく一緒に遊ぶ間柄です。

その後、僕たちの修学旅行はいつのまにか終わりを迎え、帰国する日になりました。「もう終わる日だ。」と感じたあつという間の修学旅行は僕や周りの友人たちにも、とても大きく、とても良い影響を与えてくれたようで、学校生活でもいつも「あのときは楽しかったな」と話題が尽きず、参加して本当に良かったなど思わせてくれました。

修学旅行のとき引率をしてくれた先生方やスタッフの方に一言言います。

「I'm forever in your debt. Thankyou!」

(一生返せないぐらいの恩人です。ありがとう！)

K. K (福岡市立香椎第3中学校出身)

私の高校生活は、一年生の秋に転校してきたところから始まりました。新しい環境に飛び込むことに不安を感じ、友達ができるのか、うまくやっていけるのか心配していました。そんな中、野球部の体験に参加した際、同学年のチームメイトが優しく声をかけてくれ、自然と会話の輪に入れてくれました。その何気ない優しさのおかげで、不安は少しずつ消えていきました。この出会いが、高校生活を前向きに過ごすきっかけになったと思います。

三年生の春頃には、サッカー部のことで悩み、試合に出ることをやめようと考えた時期もありました。そんな時、相談に乗ってくれて背中を押してくれた友達には本当に感謝しています。私は、チームメイトからサッカーに必要なスキルや、動き方を学びました。夏の大会に向けて努力を重ね、決勝戦で決勝点を取ることができた経験は、三年間の中で最も印象に残っています。

また、生徒会長として先輩の卒業式で送辞を務めたことも、大切な思い出です。感謝の気持ちをしっかり意識して言葉を選ぶことで、自分の思いは相手に伝わるのだと学びました。

高校生活で得た多くの経験を糧に、大学では教師になるという目標に向かって努力していきたいです。

Y. K (福岡市立原中学校出身)

高校生活を振り返ると、長いようで短い、内容の濃い三年間でした。特に思い出に残っているのは、三年生のときです。夏ごろから朝起きられなくなり、休むことも多く、その時期は特に両親や友人、先生方など、たくさんの人に助けてもらいました。体育祭の応援団や、友達と回った文化祭など、楽しい思い出もあれば、「もっと学校行けてたらな」という後悔もあります。転校が決まったときも、両親は中央で卒業して欲しかったかもしれないと考えたり、一緒に頑張ろうと言ってくれた友達にも申し訳ないなど、気持ちの切り替えがうまくできなかったりしました。そんなときにも、前向きな言葉をかけてくれた両親や、転校しても気にかけてくださる先生方、暖かく迎え入れてくれる友達のおかげで、転校という結果も自分の糧になると信じて、切り替えることができました。

今、共通テストを終え、前期試験に向けて勉強しているところです。卒業もしたいし大学生にもなりたい、一人暮らしもしたい、というわがままだらけの私を育ててくれた家族には、本当に感謝しかありません。これからは少しずつでも、親孝行という形でお返ししたいと思っています。家族にも、友人にも恵まれてここまでこれたことが、本当に幸せです。

大学に合格できたら、アルバイトを始めたり、サークルに入ったり、今までとはまた違った環境になると思います。勉強も娯楽も含めて頑張らずに自分らしく、大学生活を充実したものにしたいです。

A. G (福岡市立香椎第2中学校出身)

私は2年生の途中で転入しました。転入する前はとにかく不安で、やりたいことがあって入ったはずの高校をやめ、ほとんど知識がない通信制の高校に通うということは私の中でとても大きな一歩でした。福岡城西学園に入って最初の頃は友達をつくるどころか話しかけることもできず、1人でレポートに向かう日々でした。先生から話しかけてもらえるのも最初は少し怖くて1人でいたいという気持ちと友達をつくりたいという気持ちで半々でした。

でも段々慣れてくると友達もでき先生とも近況報告をできるくらい学校に行き、人と話すことが楽しくなりました。福岡城西学園に通っている人達はとても優しく、話したことがない人でも一緒に話してくれる人がたくさんいました。全日制とは違って全てが自由な福岡城西学園では普通の高校では学べないようなことをたくさん学びました。トラブルがあったときで

も先生達はずっと話を聞いてくれて福岡城西学園じゃなければ私は将来のことを考えられていなかったかもしれません。

私の将来の夢は教師になることです。福岡城西学園にいる先生達のように生徒に寄り添い、生徒目線に立てるような教師になりたいと思っています。そして教師になった姿を先生達に見せて胸を張って幸せですと言える人間になりたいです。

R. S（福岡市立原中学校出身）

わたしが高校生活で思い出に残ってることは日々のアルバイトと大学に合格出来たことです。

高校一年生の頃は進学はあまり考えてなく、適当に就職するか、なにかの専門学校に行くかと考えてました。なりたいものやしたいことがいくつかあり、自分が将来何になりたいのかわかってませんでした。ですが、日々を送っていくにつれて、自分のなりたいものが正確になっていき、自分が中学生の頃なかなか教室に上がれず、学校自体にもいけない時期があった時に支えてくれた養護教諭の先生やスクールソーシャルワーカーの先生のように、私も同じような子達を支える力になりたいと思うようになりました。

最初は看護師を通して養護教諭になろうと思ってましたが、看護学校に入るための勉強をしていくにつれ、わたしは看護師になりたい訳じゃなく、また、私の性格上養護教諭の資格を取る前の看護師の資格をとる時に挫折をしてしまいそう思うようになりました。そこで、高校生活の半分をスーパーと飲食店で掛け持ちのバイトをしてたんですが、スーパーのバイトを通して体の不自由な人の買い物の手伝いをしたり、地域の繋がりを体感したりと、日常生活から感じたこと、小中学生の頃にお世話になったスクールソーシャルワーカーの先生のことを思い出し、私は社会福祉学科のある大学に進むのが、向いているなど、自分の本当にしたいことだなと感じました。

そこからは、入試方法の小論文を完璧にするために今野先生に何回も添削してもらったり、2、3年時担任の田邊先生には進路相談や進学に基づいての不安なこと面接練習、色んなことで支えてもらいました。進路相談以外にも色んな相談にのってくれ、自信をつけてくれたので感謝しています。先生たちのお陰で無事に大学も合格できました。

最初はなんでこの高校選んだんだろうと思ってたけど、それは私がちゃんと向き合ってただけで、ちゃんと向き合い、真剣になれば、周りの人も助けてくれ、上手くいきます。高校生の本分は学習ですが、わたしはバイトを通して、色んなことを学び、人としてとても成長出来たと思っています。

母子家庭なので、お金の面でもお母さんの負担を少しでも減らせたかなと思っています。これからも大学生活で色んなことを学び、まだまだ成長し色んな人の支え、力になれるようなソーシャルワーカーになりたいと思います。

Y. T（糸島市立前原中学校出身）

この学校で沢山の貴重な経験をすることが出来ましたが、やはり多くは部活動から得られたものだと思います。

最初はこの学校に部活が存在することも知らなかったのですが、当時担任だった先生から陸上部を勧められ入部することとなりました。

これまで部活動を経験したことのない自分にとって、1つの大会と1つの記録に対して全力になり厳しい練習をこなすことは新鮮なものでしたし、これほど忍耐力や自制心を必要とするものに触れたのも初めてのことでした。2年生になってから部長として、それまでとは違った立場から部活動に向き合うこととなりました。仲間たちと共にスポーツを楽しむ、また他人にスポーツを教える楽しさを知れたことは、自分の進学先や将来の目標につながる非常に大きな出来事として深く印象に残っています。

部活に限らず、私はこの学校に入学して正解だったといつも思います。入学当時は持病のこともあり、学校に継続して通えるかも分からなかったので、特に学校生活というものに期待はしていませんでした。しかし、個性を尊重する学校制度と、それに携わる多くの先生方がいたため、全てにおいて入学当初は思い描くことのできなかつた充実した学校生活をおくることが出来ました。そして、このような楽しい思い出と共に卒業出来ることを嬉しく思います。

S. T（福岡市立横手中学校出身）

高校生活の中で一番の思い出は、修学旅行です。初めて日本を離れることになり、不安と期待が入り混じった気持ちで出発したことを今でも覚えています。言語や文化の違いに戸惑うこともありましたが友達と助け合いながら協力することで少しずつ不安は楽しさに変わっていきました。現地の街や食事は、教室では学ぶことのできない貴重な経験になりました。修学旅行を通して、友人との絆がより深まり協力することの大切さを学びました。また、視野が広がり、新しいことに挑戦する勇気を持つことができました。初海外という思い出は、高校生活の中でも忘れられない経験です。

私の将来の目標は、栄養士になることです。食事は人の体だけでなく、心の健康にも大きく関わっていると知りました。これからは、栄養についての知識をしっかり身につけ、たくさんの人の健康を食の面から支えられるようになりたいです。そのために、日々の勉強を大切に、何事にも前向きに取り組みたいです。これまでの学校生活は、友達や先生に支えられて多くの事を学びました。

これからは失敗を恐れず、新しい事にも積極的に挑戦していきたいです。自分の夢に向かって、努力を続け、周りの人に感謝の気持ちを忘れずに成長していきたいです。

M. N（福岡市立城南中学校出身）

私が高校3年間一番大事に心がけてきた事は挑戦する事です。小学生から中学校までは特に実行委員などはやったことがなかったのですが、高校に入学してからは文化祭リーダーや体育祭実行委員などの行事に積極的に参加することができ、今までの私には考えられない事を沢山することができました。

その中でも、文化祭では一年二年と販売グループのリーダーをまかされ皆と支え合いながら、売上を黒字にする!!という目標を目指して進んでいくことができ、実際に売上を黒字にもっていくことができました。

体育祭では、2年生から実行委員に挑戦し1年生に向けての指示や周りをよく見て次の行動にうつすなどの動き方を学ぶことができました。3年生も実行委員に挑戦したのですが、徒競走で足をケガしてしまい、思うように動くことができなかつたのでそこは悔しい思い出になっています…。それでも、陸上部の皆との準備のライン引きや声かけなどの成果が認められて、初めて学年 MVP などの賞状をもらい、さらに徒競走優勝というすばらしい経験をすることができてよかったと思っています。

最後に部活動では私は3年間陸上部のマネージャーという立場で1年生の頃は慣れない仕事、上級生との関わり方、どういうメニュー・方法なのかななどさまざまなことに追われそれに一生懸命についていくことが精一杯でした。

2年生になってからは3年生の先輩がうまく引っぱってくれ、部員の皆との関わり方だったり、メニューの組み合わせ方、アドバイスの仕方などさまざまな事を学ぶことができ本当に私にとって頭が上らない人達です。

3年生になってからは、最初は、歴代の先輩方のようにうまく引っぱることができるのか、カッコいい先輩になれるのかなどたくさんの不安がありましたが、初めてマネージャーの後輩が2人もできたり、県大会優勝、全国大会福岡県4位というすばらしい結果を残せてほんとに選手の皆すごいとずっと感動していました。

この3年間は私にとってとっても大切な思い出だし、一生記憶に残っているものだと思います。3年間たくさん生徒にむきあってくれた先生、一緒に楽しいことをやってくれた友達、全力でぶつかって笑い合った部活動の皆、ありがとうございました。

Y. M（福岡市立田隈中学校出身）

僕が高校生活を振り返って一番思い出に残っていることはスクーリングです。僕は中学校の3年間、ほとんど登校できずに卒業してしまったので、最初はさまざまな人と関わることや5日間も授業に参加することに対してすごく不安でした。ですが、実際に参加してみると先生方のお話や授業形式のおかげでとても楽しみながら学ぶことができました。そして、人と話そ

うとすると緊張して上手く言葉を発することができず、ちゃんとした受け答えが出来なかった自分が、スクーリングを通じて少しずつ人と関わることへの抵抗感も薄れていき、現在は人並みに話すことができるようになったと思っています。そんな自分が変わるきっかけになってくれたスクーリングと、なにより僕と真摯に向き合ってくださった先生方に、心から感謝しています。

これからもこの経験を大切にして、自身の生活をよりよいモノへと変えていきたいと思えます。

S. Y（福岡市立金武中学校出身）

高校生活を振り返ると、特別な出来事よりも、毎日の積み重ねが一番心に残っています。最初は人前で意見を言うのが得意ではなく、行事にも一歩引いてしまうことがありました。それでも文化祭実行委員として、受付や会場対応を任されたことで、周りを見て動くこと、声をかけ合ってやり切ることの大切さを学びました。うまくいかない時もありましたが、「次はどうすれば良いか」を考え続けた経験は、自信になりました。

また、アルバイトでは、お客様の困りごとを丁寧に聞き取り、落ち着いて対応する力が身につきました。

中学生への学習支援ボランティアでは、相手の理解度に合わせて伝え方を工夫し、できた瞬間を一緒に喜べたことが印象に残っています。

ここまで歩んでこられたのは、支えてくれた家族、先生方、そして一緒に過ごした友人のおかげです。感謝を忘れず、これからさらに学びを深め、誰かの不安を減らせるような力を持った大人になりたいです。高校で得た「続ける力」を胸に新しい場所でも頑張ります。

K. W（福岡市立姪浜中学校出身）

私は高校生活を振り返って、印象に残っていることが3つあります。

1つ目は、文化祭です。1年生の時は、準備だけをして当日は不参加でしたが、2年生では、当日にも参加して友達といろいろなところをまわったり、金券係をしたりして、楽しかったです。

2つ目は、中学生に勉強を教える、高校入学準備講座のボランティアです。2週間に1回、学校で中学生と一緒に数学や英語の勉強をしました。最初は、自分も緊張してあまり教えることができなかったけれど、途中からは緊張しなくなって、自分から積極的に教えることができてよかったです。このボランティアで、教える時は、大雑把ではなく、細かく、分かりやすく教えることが大切であると分かりました。

3つ目は仲の良い友達ができただけです。初めて登校するときは不安でしたが、話しかけ

てくれて、嬉しかったです。

私は福岡城西学園に入学して、いろいろな体験ができました。ちゃんと学校に行けるか不安でしたが、授業にも積極的に出席することができました。ここまでこられたのは、支えてくれた家族や先生方、友達のおかげです。この3年間で得られた経験を活かして、これからも頑張っていきたいです。

A. N（福岡市立城西中学校出身）

自分が福岡城西学園を選んだ理由は、小学校、中学校と毎日学校へ通いながらの勉強が苦手だったからです。中3の夏頃に、この学校のことを知り親と見学へ行き、勉強が苦手でも自分のペースで学ぶことができると知りました。

高校3年間、毎日登校し授業に出て、たくさんのことを学びました。また、体育祭、初めての文化祭、初めてのボランティア活動へも参加しました。どの経験もいい思い出になりました。また、卒業後の進路が決まった時は、とても嬉しかったです。就職試験前に面接指導をしてくださった先生方には、とても感謝しています。ありがとうございます。卒業しても、「一步一步」前に進んでいきたいと思います。

H. O（福岡市立香椎第1中学校出身）

私が高校生活を振り返って思い出すのは、どんな時も支えてくれた家族の存在だ。体調が悪い時には学校まで車で送ってくれたり、将来が不安で落ち込んでいる時には「大丈夫！」と明るく励まし、私を信じてくれた。そして、一緒にたくさん笑った。周囲の人のおかげで、私はこの学校を卒業することができた。この感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を歩んでいきたい。

高校卒業後の新しいステージでの目標は、積極的に動くこと、やると決めたことを継続すること、仲間をつくることだ。特に高校生活の中で、積極性の大切さを実感した。この経験は、これからの生き方にも繋がると思う。人生のイベントや出会いは、自分の人生だからこそ、自分で与えていかなければならない。だからこそ、積極的に動き、これから沢山の経験をしていきたい。

最後に、すべては諸行無常だと、よく考える。全ては移ろい、去っていく。普段は当たり前になってしまっているものや、つい雑に扱ってしまいがちな大切なものに目を向け、大切にしながら、これからも変わり続けていきたいと思う。

改めて、これまでお世話になった先生方、家族のみんな、本当にありがとうございました！

《令和7年度 部活動結果》

- 【 野球部 】 ◎全国高等学校定時制通信制軟式野球大会
・ **全国大会出場**
○定時制通信制福岡県軟式野球大会
・ **県大会優勝**
- 【 サッカー部 】 ◎全国高等学校定時制通信制サッカー大会
・ **全国大会出場**
○定時制通信制福岡県サッカー大会
・ **県大会優勝**
- 【 陸上部 】 ◎全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
・ **男子個人全国大会出場**
(100m/200m/400m/800m/5000m/走幅跳/走高跳/
砲丸投/円盤投/4×100mリレー※大会新/4×400mリレー)
○定時制通信制福岡県陸上競技大会
・ **男子総合優勝**
- 【 探究部 】 ◎QUEST CUP 2026 (SMALL START 部門)
・ **全国大会出場**
- 【 剣道 】 ◎全国高等学校定時制通信制剣道大会
・ **福岡県合同チーム 団体全国大会優勝**



令和7年度 卒業生実績 (2月24日時点)

【大学・短大】(九州内)

● 西南学院大学	外国語学部	外国語学科
● 西南学院大学	国際文化学部	国際文化学科
● 福岡大学	工学部	社会デザイン工学科
● 福岡大学	工学部	社会デザイン工学科
● 福岡大学	法学部	経営法学科
● 福岡大学	法学部	経営法学科
● 福岡大学	人文学部	英語学科
● 福岡大学	経済学部	経済学科
● 福岡大学	経済学部	経済学科
● 福岡大学	ｽｽﾞｰ科学部	ｽｽﾞｰ科学科
● 福岡大学	ｽｽﾞｰ科学部	ｽｽﾞｰ科学科
● 中村学園大学	教育学部	児童幼児教育学科
● 中村学園大学	教育学部	児童幼児教育学科
● 中村学園大学	栄養科学部	栄養科学科
● 中村学園大学	栄養科学部	栄養科学科
● 中村学園大学	短期大学部	幼児保育学科
● 中村学園大学	短期大学部	ｷﾘｱ開発学科
● 中村学園大学	短期大学部	ｷﾘｱ開発学科
● 中村学園大学	短期大学部	ｷﾘｱ開発学科
● 九州産業大学	理工学部	情報科学科
● 九州産業大学	人間科学部	臨床心理学科
● 九州産業大学	国際文化学部	国際文化学科
● 九州産業大学	国際文化学部	国際文化学科
● 九州産業大学	経済学部	経済学科
● 九州産業大学	経済学部	経済学科
● 九州産業大学	商学部	経営・流通学科
● 九州産業大学	商学部	経営・流通学科
● 九州産業大学	地域共創学部	地域づくり学科
● 九州産業大学	地域共創学部	地域づくり学科
● 九州産業大学	地域共創学部	地域づくり学科
● 九州産業大学	芸術学部	写真映像メディア学科
● 九州産業大学	芸術学部	生活環境デザイン学科
● 九州産業大学	芸術学部	ソーシャルデザイン学科
● 九州産業大学	芸術学部	芸術表現学科
● 九州産業大学	芸術学部	芸術表現学科
● 九州産業大学	芸術学部	ビジュアルデザイン学科
● 九州産業大学	芸術学部	ビジュアルデザイン学科
● 九州産業大学	造形短期大学部	造形芸術学科
● 九州産業大学	芸術学部	ビジュアルデザイン学科

● 九州産業大学	造形短期大学部	造形芸術学科
● 九州産業大学	造形短期大学部	造形芸術学科
● 福岡工業大学	情報工学部	情報通信工学科
● 筑紫女学園大学	人間科学部	心理・社会福祉専攻
● 九州女子大学	人間科学部	心理・文化学科
● 九州医療科学大学	社会福祉学部	ｽｽﾞｰ健康福祉学科
● 西九州大学	健康福祉学部	社会福祉学科
● 香蘭女子短期大学		食物栄養学科
● 香蘭女子短期大学		食物栄養学科
● 香蘭女子短期大学		食物栄養学科

【大学・短大・海外留学】(九州外)

● 多摩美術大学	美術学部	油絵専攻
● 東京造形大学	造形学部	デザイン学科
● 東海大学	法学部	法律学科
● 二松学舎大学	文学部	国際日本・中国学科
● 創価大学	教育学部	児童教育学科
● 同志社大学	文学部	英文学科
● 立命館大学	法学部	法学科
● 関西学院大学	人間福祉学部	社会起業学科
● 関西学院大学	文学部	文化歴史学科
● 京都芸術大学	芸術学部	ｷﾘｱｸﾞﾃﾞｰｼﾞﾝ学科
● 近畿大学	工学部	生物環境化学科
● 近畿大学	工学部	建築・ﾃﾞｰｼﾞﾝ学科
● 近畿大学	工学部	電気電子工学科
● 近畿大学	工学部	情報学科
● 近畿大学	工学部	経営ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科
● 関西外国語大学	外国語学部	英米語学科
● 関西外国語大学	外国語学部	国際日本学科
● 関西外国語大学	英語ｷﾘｱ学部	小学校教員学科
● 関西外国語大学	英語国際学部	英語国際学科
● 岡山理科大学	教育学部	中等教育学科
● 岡山理科大学	教育学部	初等教育学科
● 岡山理科大学	教育学部	初等教育学科
● 岡山理科大学	経営学部	経営学科
● 岡山理科大学	工学部	建築学科
● 岡山理科大学	情報理工学部	情報理工学科
● 岡山理科大学	情報理工学部	情報理工学科
● ZEN大学	知能情報社会学部	
● TAFEオーストラリア	教育・福祉ｺｰｽ	

【専門学校】

○ 中村調理製菓専門学校	調理師科	○ 大村美容ﾌﾞﾗﾝﾁﾝｸﾞ専門学校	美容科
○ 麻生公務員専門学校	公務員総合科	○ 香蘭ﾌﾞﾗﾝﾁﾝｸﾞデザイン専門学校	ﾌﾞﾗﾝﾁﾝｸﾞｲﾚｲﾃﾞｰｼﾞﾝ科
○ 麻生情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ専門学校	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ	○ Be-STAFF	美容科
○ 麻生情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ専門学校	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ	○ 福岡ECO動物海洋専門学校	動物看護科
○ 麻生工科自動車大学校	1級自動車整備科	○ 福岡医健・ｽﾎﾟｰﾂ専門学校	ｽﾎﾟｰﾂ科
○ 麻生工科自動車大学校	1級自動車整備科	○ KCS福岡情報専門学校	情報ｽﾊﾟｰﾙ開発科
○ 麻生工科自動車大学校	2級自動車整備科	○ 福岡情報ITｸﾘｲﾀｰ-専門学校	高度ｼｽﾃﾑ開発科
○ 麻生外語観光&ﾌﾗｲﾀﾞﾙ専門学校	韓国語ｺﾐｭｰｼﾞｮﾝ	○ 福岡ｶﾙﾁｬｰﾞﾞﾗﾌﾞﾙ	大学併修ｸﾘｰﾄ科
○ ASOﾎﾟｯﾌﾟｶﾙﾁｬｰ-専門学校	CG3年科	○ 福岡こども専門学校	こども総合科
○ ASOﾎﾟｯﾌﾟｶﾙﾁｬｰ-専門学校	CG3年科	○ 博多ﾃﾞｰｼﾞﾀﾙ専門学校	歯科技工士科
○ 中村調理製菓専門学校	調理師科	○ 福岡ﾘﾝｸﾞ&ｽﾎﾟｰﾂ専門学校	ｽﾎﾟｰﾂ&ｱｸﾃｲﾌﾞﾃｲ科
○ 福岡調理師専門学校	調理師高度技術科	○ ヒューマンｱｶﾃﾞﾐｰ福岡校	マンガ専攻
○ 福岡調理師専門学校	調理師高度技術科	○ ヒューマンｱｶﾃﾞﾐｰ福岡校	マンガ専攻
○ 福岡デザイン&ｸﾘｱｰ-専門学校	ｺﾐｭｰｼﾞｮﾝ&マンガ科	○ ESPINﾀｲﾃﾞﾝﾄ福岡校	音楽芸能ﾀｸﾞ科
○ 福岡デザインｲﾝﾀｰ-ｱｶﾃﾞﾐｰ	ｸﾞﾗﾌｨｯｸデザイン科	○ 福岡県立高等技術専門学校	建築科
○ 福岡ﾋﾞｼﾞﾈｽｱﾙﾏｰﾝ-ｱｶﾃﾞﾐｰ	ｸﾞﾗﾌｨｯｸｲﾚｲﾀｰ科	○ 福岡障害者職業能力開発校	ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾝﾃﾝﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

【就職等】

○ 自衛官一般曹候補生(陸上)	○ 福岡県広域森林組合	○ (株)炭寅ｺｰﾎﾟﾚｰｼﾞｮﾝ	○ GOLD SEA BUILDING(株)
○ (株)ロピア	○ 香岐・対馬ﾌﾞﾚｰﾄﾞ(株)	○ (株)ｴﾑ・ﾃﾞｲ・ﾈｯﾄ	○ 山川工業
○ (株)明月堂	○ (株)ゆふいん花田	○ (株)ﾃｲｸﾗｲﾝ	○ (有)小峰組
○ (有)薩摩蒸気屋	○ 日本医療サービス(株)	○ (株)鷹勝ｶｰﾚﾝﾄ	○ 匡和工業(株)
○ (株)フードウェイ	○ (株)百笑屋	○ (株)ｸﾞﾗｲﾝ	○ (株)やまさき建築



福岡城西学園

あとがき

生徒一人ひとりに書いていただいた卒業文集を読ませていただきながら、それぞれの生徒が、初めて相談に来た時の表情や、話してくれた内容を思い出しています。

入学から今日までの時間を福岡城西学園で過ごし、卒業となった皆さんの姿を見ていると、皆さんそれぞれが自分らしく、地に足をつけて今後のことを考え、顔立ちもしっかり「大人の顔」へ成長してきました。その変化はとても大きなもので、おそらく皆さん自身もはっきり感じることできる変化だったと思います。

この卒業文集は、皆さんの変化（成長）の記録です。10年後、20年後にこの冊子を見返し、過ぎ去った時間を思い起こしながら、その時の日常を大切にしていいただければと思います。